

守山の「歴史文化」の魅力を探る

ピックアップ



地域の人と一緒に大掃除(仏具磨き)のお手伝いをしました



モリヤマジュニアリポーターは守山の魅力について、テーマの検討から現地でのインタビュー、写真撮影、執筆まで行い、小学生リポーター独自の目線で紹介するコーナーです。

①観音寺の篠原 啓人住職②③取材を受けてくれた地域の人たち④手づくりの紙芝居、「頼朝の藤」を熱演⑤住職と名刺を交換して挨拶⑥本堂で普段は入れない場所も取材⑦⑧境内の石庭づくりを体験⑨仏具の鉦を磨いて大掃除の手伝い⑩本堂のインタビュータイム



②



③



④



⑩

市内にある約120カ寺、約40神社は、地域の歴史文化を今に伝える貴重な史跡でもあります。今回は守山の「歴史文化」をテーマに、観音寺(水保町)へ取材に行ってきました。

事前の学習で、文化財保護課の職員から「大切に守られてきた古いものは何でも文化財。その中で特に貴重なものが国や県の指定文化財となっていてます」と聞いていました。

観音寺は、寺伝によれば慶俊法師を開基として天平元年(729年)に建立されました。約1,300年の歴史の中で、天災や兵火にも遭いましたが、そのたびに再建され、地域の人たちに大切に守られてきました。

絹本着色仏涅槃図、紙本着色

十王図(地獄絵図)、石造板碑など市指定文化財のほか、源頼朝公ゆかりの藤など、所蔵する寺宝は、地域の歴史と人々の営みや文化を今に伝えています。

モリヤマジュニアリポーターは、篠原啓人住職と地域の人から観音寺の歴史や寺宝について聞いたり、毎日の仕事や家庭とはまったく違う、正月準備の大掃除の手伝いや石庭づくりなどの体験を通して、社寺が地域の歴史文化の語り部であることを学びました。

お寺は立派で不思議な空間



本堂

境内

頼朝公の藤

肉陣の龍

文化財の掛け軸

十王図




おもてなしのプロ

おむかひ 榎 リポーター
小河 栞

観音寺のお坊さんに、一日の仕事について教えてもらった。とくに印象に残ったことは、石庭や本堂の掃除など、お寺の手入れにかかる時間が、仕事の半分をしめていることだ。そのことを知ったとたん、観音寺のお坊さんは、おまわりする人のために、きれいにしておもてなしをするプロだなーと感じた。約400年前の掛け軸など文化財も大切に保管しているそう。

私は、「おつみんち」の近くに、こんなすてきなお寺があるなんて驚いた。




1日の大変なこと

つむぎく こむぎリポーター
津布工 こむぎ

わたしは、住職さんから1日の流れをお聞きしました。まず、起きる時間は夏・4時30分で、冬・5時です。それから身じたくをして線香をそなえたり、おきょうを読んだり、午前中はこのようなことをします。午後は、庭そうじをして書き物、たまにさんぎようがあります。そしてねるのはなんと11時、12時ぐらいなのです。

この記事でしようかいして、わたしが大変だと思ったのは、早起きをして、夜11時、12時ぐらいにねるということでした。




観音寺の龍

ひらい なぎ リポーター
平井 栞

観音寺には、沢山の龍がいることを知っていますか。神社には神の生き物である龍が住んでいることが多いそうで、ここ観音寺にも全部で23匹の龍がいました。

また、龍は水をつかさどる神なので『雨乞い天神』とも呼ばれていたらしく、龍が雨を降らしているのを表した金の鈴がありました。それは「龍がふらす雨は甘く、金銀財宝であり、音楽を奏でる」ということを表しているそうです。私は辰年なので一年になりそうです。



観音寺について

しみず ゆうま リポーター
清水 佑真

ぼくはお寺と住職さんについて2つ書きます。1つ目はお寺の役割についてです。観音寺は住職さんが住んでいて、地域の人にとって、いいこの場所となっていて（実際にお寺で交流していました）。2つ目は住職さんが身につけている「わげさ」についてです。「わげさ」とは首にかける服装で、つけるわけさを着ていることになりました。

取材したのは年末だったのでお正月の準備でいそがしく、大掃除の仏具みがきをさせてもらいました。



淡海録名藤

おしみろ りか リポーター
大生 静芭

観音寺には、昔から受け継がれている藤があります。それは「淡海録名藤」です。淡海録名藤は、およそ860年前に平治の乱で源頼朝が戦から逃げる時に観音寺に寄った際、馬のむちにしていた藤の杖を地面にさしてお祈りしたところ、藤の芽が伸びたといわれます。現在まで守り続け、紙芝居も見せてもらいました。その藤はふだん公開されているので、ぜひみな様も見に行ってみてはいかがでしょうか。ほかにも地獄絵図など貴重な文化財を見せてもらいました。

モリヤマジュニアリポーターミッションを修了！

守山の魅力、上手に伝えられたかな



令和6年1月10日、モリヤマジュニアリポーターはミッションを修了して感謝状をもらいました

「モリヤマジュニアリポーター」は、新鮮な感性を持つ小学生の目線で守山の魅力を発信してもらうとともに、子どもたち自身にも守山をもっと好きになってもらうための企画です。また、企画から、取材、執筆、編集までページ制作に参加することで、普段できない体験や学びにつなげてほしいと考えて取り組んでいるものです。

モリヤマジュニアリポーターに応募してくれた児童5人は、1回目「防災」、2回目「歴史文化」と事前学習や取材、執筆の勉強だけでなく、写真撮影や記事編集などの作業にも積極的に関わりました。

取材本番ではインタビューや体当たり体験だけでなく、自分なりのテーマとタイトルで記事を書き上げて広報もりやまに掲載。最後に感謝状を受け取りました。

1年間の活動

- 顔合わせ
アイデア出しゲーム
- 勉強会
防災の事前学習・模擬取材



- 北消防署で取材本番
- 記事執筆・推敲
- 10月15日号掲載
- 文化財の事前学習・模擬取材
- 水保町観音寺で取材本番
- 編集会議・校正・推敲
- 修了式(一年の振り返り)
- 2月15日号掲載



広報担当者のつぶやき

私も広報1年目。実は作文が得意ではないので、子どもたちと一緒に勉強していました。子どもが感じる素朴な疑問や観察力はすごいと思います。負けそう…(汗)。

ジュニアリポーターの活動を振り返って

清水 佑真(5年)

防災の取材で8分以内に逃げる法則を学びました。観音寺では鉦を磨くと音が変わりました。貴重な体験ができただけでなく、作文も成長できたと思います。

平井 椰(5年)

インタビューに答えてくれるスピードに書くことが追いつけなくて苦労したけれど、普段行けない所へ行けたし他校生と交流、仲良くなれて楽しかったです。

小河 栞(5年)

普段いけない場所、会えない人々と会って取材できました。特にお寺の住職のお話は貴重な体験でした。記事も難しかったけれどやりがいがありました。

東 静芭(4年)

普段できない取材は楽しかったです。取材しながらメモをまとめるのは大変でした。長い文章を書くのはできるけれど、短くまとめる力がついたと思います。

津布工 こむぎ(4年)

消防署では放水ホースが重くて驚きました。観音寺では石庭づくりでも模様がずれてしまっって難しかったです。普段はできない体験ばかりで楽しかったです。



平井 椰さん



清水 佑真さん



津布工 こむぎさん



東 静芭さん



小河 栞さん